

令和6年度

宮井小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎的・基本的な学力の向上に向けた授業の推進
- ② 言語活動を充実させ、自分の考えを分かりやすく伝える児童の育成
- ③ 進んで学習に取り組む態度を育て、学校と家庭の連携による学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	校長 教頭 教諭	低学年担当 高学年担当
教諭	中学年担当	教諭		

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○児童の漢字・計算などの基礎学力向上を目指し全校で取り組んでいる。漢字の読み書きや計算などの基礎学力を身に付けることが概ねできている。 ●漢字の読み書きや計算などの基礎学力の個人差が大きい。また、語彙量が少なく、文章を読むこと・書くことを苦手とする児童が見られる。	① 漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を8割以上身に付けることができる。 ② 各学年で定めた目標読書冊数を目指して、進んで読書に向かうことができる。	① ドリルやプリント、テストなどで児童の基礎的・基本的な知識・技能の習熟度を確認する。「くじゃくタイム」を活用し、定着を図る。個人の能力に応じて、自主学習やタブレットドリル等の課題に取り組めるようにする。 ② 読書カードを活用し、多読賞を設ける。学級図書を入れ替え、様々な本に親しむ機会を確保する。			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、自分の意見を持ち、考えを深めることができる。 ●自分の考えをまとめることが苦手である。また、意見を相手に伝えることに消極的である。	① 自分と友達の考えを比較・検討しながら聞き、自分の考えをより深め表現することができる。 ② 自分の考えや意見を意欲的に表現することができる。	① 相手の意見を聞き、それに対する自分の考えをもつ場を適宜設定する。 ② 発表の形式をスモールステップで指導し、様々な形での発表の機会を増やす。 ③ 「自分の意見が相手に伝わる」という成功体験を重ねることで、達成感を味わわせるとともに、安心して発表できる環境づくりを行う。			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組むことができている。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。また、学年に応じて家庭学習の時間を決めているが、学年が進むにつれて、家庭学習の時間が確保できていない状況である。	① 学習課題に意欲的に取り組むことができる。 ② 自分に必要な課題や興味のある課題、家庭学習に積極的に取り組むことができる。	① 児童の主体的な体験や活動を授業や学校生活全般に取り入れ、学習する楽しさを味わうことができるようにする。(ICT機器の活用やホワイトボードミーティング等) ② 「家庭学習の手引き」に沿った家庭学習を定着させ、分かる喜びを感じ、様々な課題に根気よく取り組む態度の育成を図る。			

